

# 本郷キャンパスの弥生時代から古墳時代

## 開催の趣旨

東京大学本郷キャンパスは、キャンパス全域が本郷台遺跡群および弥生町遺跡群の範囲内に含まれており、旧石器時代から近代までの良好な遺構や遺物が多く残されています。なかでも弥生時代に関しては、研究の出発点といえる弥生式土器第1号の発見地をめぐる論争や、その議論に重大な影響を与えた浅野キャンパスにおける環濠集落の発見によって大きく注目されてきました。一方、古墳時代に関してはこれまで具体的な様相は不明でした。

近年、キャンパス内での継続的な調査と研究とが実を結び、医学部附属病院付近に存在した古墳時代の集落の様子が明らかになってきました。こうした成果から本郷台では、弥生時代だけでなく、古墳時代にも人びとの活発な生活が営まれていたことがわかってきました。

今年の調査研究プロジェクトでは、本郷キャンパス内の弥生時代・古墳時代の調査と研究の成果を広く公開するとともに、そうした新知見をふまえて、本郷台における弥生時代から古墳時代への移り変わりを議論します。

## 報告内容

1. 趣旨説明 山下 優介（国立歴史民俗博物館）
2. 東京大学医学部附属病院地区の古墳時代の遺跡 成瀬晃司・堀内秀樹（東京大学埋蔵文化財調査室）
3. 弥生式土器第1号と弥生町遺跡群形成の背景 篠原 和大（静岡大学）
4. 発掘調査からみえた古墳時代の本郷台 山下 優介（国立歴史民俗博物館）

日 時 2025年3月15日（土） 13:00～16:30（12:30開場）

会 場 東京大学法文1号館 113番教室（東京大学本郷キャンパス）

交 通 地下鉄丸の内線 本郷三丁目駅ほか

参 加 費 無料（申し込み不要）

共 催 東京大学埋蔵文化財調査室・次世代人文学開発センター・考古学研究室

問 合 せ 東京大学埋蔵文化財調査室 maibun@aru.u-tokyo.ac.jp



写真 上：看護職員等宿舎1号棟地点土器出土状況 下：ドナルド・マクドナルド・ハウス地点出土土器